

週刊文春

12月31日・1月7日新年特大号

特別定価370円



呼吸器・循環器系疾患

●**沼口雄治** 聖路加国際病院
放射線科（東京都）
☎03-3541-5151

●**経皮的椎体形成術** 身長短縮や寝たきりの要因となる脊椎の骨粗鬆症や圧迫骨折。圧迫骨折でつぶれた空間に骨セメントを注入・修復する経皮的椎体形成術は、骨転移がんにも効果が期待される。80年代に開発された技術をいち早く導入。まだ保険適用外だが既に1000人に実施した。

●**田尻道彦** 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器外科（神奈川県）
☎045-701-9581

●**肺がん・気胸** 胸腔鏡手術を早くから手がける一人で、2000例以上を経験。この手術は患者の身体負担は軽い

が、確実に行うには医師の力量や経験が問われる。循環器科に強いこの病院は、がん専門病院では対応が難しい心臓や糖尿病などの合併症患者も積極的に受け入れている。

●**木田厚瑞** 日本医科大学呼吸器アクリニック（東京都）
☎03-5276-2325

●**COPD** COPDと総称される肺気腫や慢性気管支炎、重症喘息など慢性呼吸器疾患の臨床研究で知られる。これらは在宅酸素療法に加え運動、栄養、薬物など総合的リハビリが有効。患者の負担を

軽減すべく、交通至便な都心の駅そばにある専門施設だ。

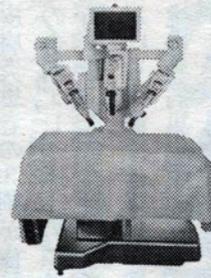
●**折津愈** 日本赤十字社医療センター呼吸器内科（東京都）
☎03-3400-1311

●**呼吸器疾患全般** 肺の病気は意外に多岐に亘る。肺炎、結核、喘息などCOPDからがんまで幅広く対応できる医師は稀有だ。もともと専門医・科が少なかつたためだが、折津医師はこの老舗呼吸器内科で多様な疾患を診てきた貴重な存在。

●**渡邊剛** 金沢大学附属病院心臓総合外科（石川県）／東京医科大学病院心臓外科（東京都）

●**成人の心臓手術** 岡山大学病院・佐野俊二医師、心臓血管研究所付属病院・須磨久善医師と並び日本を代表する心臓外科医。日本で初めて心臓

バイパス手術をオフポンプ（心臓を動かしたまま人工心肺も使わない）かつ完全内視鏡下で成功。ロボット手術、半覚醒麻酔での手術、三泊入院手術など革新的手術を手がける。



医師の操作で動く手術ロボットのアーム部分

●**石綿清雄** 虎の門病院循環器センター内科（東京都）
☎03-3588-1111

●**インターベンション治療** 狭心症や心筋梗塞には心臓カテーテルによるインターベンション治療（ステントを留置し血管を広げる治療）が有効で、この技術の向上でバイパス手術が減ったといわれるほど。石綿医師はこの治療を得意とするが、高血圧、肥満などのリスクをコントロールし病気を予防することも重要とい

●**上月正博** 東北大学病院内臓障害リハビリテーション科（宮城県）
☎022-717-7000

●**内臓疾患のリハビリ** リハ

ビリ医療で世界をリードする一人。冠動脈疾患の再発予防の運動療法は、驚くことに手術やステント留置と同等以上の効果があるという。内臓疾患リハ科のある病院は少なく、国際的にも専門医が少ない。遠方の場合まず上月医師の著書を求めてもよいだろう。



●**堀田修** 仙台社会保険病院（宮城県）／大久保病院（東京都）／成田記念病院（愛知県）

●**IgA腎症** 20歳前後で人工透析導入に至ることも多いIgA腎症の根治的療法「扁桃パルス療法」を開発し、世界に発信。患者の大部分が扁桃に感染病巣があることに着目し、扁桃切除＋免疫抑制治療を考案した。同治療を15年前から導入した宮城、山形の透析導入率は全国平均の半分以下。

●**白石裕比呂** 自治医科大学附属病院・とちぎ子ども医療センター小児科（栃木県）
☎0285-58-7131

●**先天性心疾患** 聴診器一本で心雑音を聞き分ける小児科医。循環器内科が専門で、必要に応じて心エコー図で詳細

肺の手術。従来、開胸手術が多くを占め、胸腔鏡手術は僅かだったが、診療点数が高くなったため参入する医師が急増中だという。

しかし全体的にはまだ開発期なので、胸腔鏡手術を希望するならばベテラン医師のいる施設を、いない場合は症例数の少しでも多い開胸手術施設で。肺がんでは薬物療法を要することも多いので、がん精通した呼吸器内科医や腫瘍内科医のいる施設を探したい。

何かと話題の心臓外科。たとえば同じ冠動脈のバイパス手術でも、A病院は首の直下から臍の上まで「30cmの皮膚切開で人工心臓を利用」、B病院では「心臓を動かしたまま人工心肺は使わず、切開も5cmほどで部分的に内視鏡利用」。医師の技量により手法が全く違うのだ。納得のゆく治療法、医師を選択するには、セカンドオピニオンの前に自分でも調べる必要がある。日本の心臓外科は「症例数の少ない医師が過剰に存在」し、「症例数の少ない施設が連携なく点在」す